

## 委員から北九州市立大学への質問事項に対する回答

中期計画 No.	期間評価	年度評価	項目	質問・回答																																																																																					
1	○		地域科目の開設等	質問	地域科目の講師として「多数の実務家教員を招聘した」とあるが、具体的な数を示してほしい。																																																																																				
				回答	<p>地域科目において、招聘した実務家教員は下記のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>2016年度</th> <th>2017年度</th> <th>2018年度</th> <th>2019年度</th> <th>2020年度</th> <th>2021年度</th> <th>2022年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域特講A ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15名</td> <td>休講</td> <td>休講</td> <td>休講</td> </tr> <tr> <td>地域の社会と経済</td> <td>9名</td> <td>9名</td> <td>12名</td> <td>13名</td> <td>7名</td> <td>9名</td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td>地域の文化と歴史</td> <td>13名</td> <td>15名</td> <td>13名</td> <td>13名</td> <td>12名</td> <td>13名</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>地域の達人 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>14名</td> <td>12名</td> <td>休講</td> <td>休講</td> </tr> <tr> <td>地域のにぎわいづくり</td> <td>-</td> <td>6名</td> <td>5名</td> <td>5名</td> <td>10名</td> <td>9名</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>地域と国際 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>12名</td> <td>8名</td> <td>13名</td> <td>15名</td> </tr> <tr> <td>地域防災への招待 ○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9名</td> <td>6名</td> <td>9名</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>北九州市の都市政策</td> <td>-</td> <td>14名</td> <td>17名</td> <td>19名</td> <td>16名</td> <td>17名</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td>まなびと企業研究 I</td> <td>-</td> <td>4名</td> <td>4名</td> <td>17名</td> <td>15名</td> <td>13名</td> <td>15名</td> </tr> <tr> <td>実務家教員数 計</td> <td>22名</td> <td>48名</td> <td>51名</td> <td>117名</td> <td>86名</td> <td>83名</td> <td>92名</td> </tr> </tbody> </table>	科目名	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	地域特講A ○				15名	休講	休講	休講	地域の社会と経済	9名	9名	12名	13名	7名	9名	11名	地域の文化と歴史	13名	15名	13名	13名	12名	13名	14名	地域の達人 ○				14名	12名	休講	休講	地域のにぎわいづくり	-	6名	5名	5名	10名	9名	12名	地域と国際 ○				12名	8名	13名	15名	地域防災への招待 ○				9名	6名	9名	7名	北九州市の都市政策	-	14名	17名	19名	16名	17名	18名	まなびと企業研究 I	-	4名	4名	17名	15名	13名	15名	実務家教員数 計	22名	48名	51名
科目名	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度																																																																																		
地域特講A ○				15名	休講	休講	休講																																																																																		
地域の社会と経済	9名	9名	12名	13名	7名	9名	11名																																																																																		
地域の文化と歴史	13名	15名	13名	13名	12名	13名	14名																																																																																		
地域の達人 ○				14名	12名	休講	休講																																																																																		
地域のにぎわいづくり	-	6名	5名	5名	10名	9名	12名																																																																																		
地域と国際 ○				12名	8名	13名	15名																																																																																		
地域防災への招待 ○				9名	6名	9名	7名																																																																																		
北九州市の都市政策	-	14名	17名	19名	16名	17名	18名																																																																																		
まなびと企業研究 I	-	4名	4名	17名	15名	13名	15名																																																																																		
実務家教員数 計	22名	48名	51名	117名	86名	83名	92名																																																																																		
2	○		地域創生学群の定員増	質問	今後、年間何人程度のスクールソーシャルワーカーを養成する予定か。																																																																																				
				回答	<p>スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定修了資格の定員は10名程度としている。</p> <p>本学の地域創生学群では、地域創生学群で展開される科目に加えて、社会福祉士に必要な科目（43科目程度）を修得し、社会福祉士国家試験に合格することで、同課程の修了が認定されることから、課程修了のハードルは高くなっている。</p> <p>学生のニーズも踏まえながら、今後見直しを検討したい。</p>																																																																																				
5	○		国際環境工学部の再編	質問	中期計画「環境関連科目を見直し充実を行う」について、成果が何かあればお示しいただきたい。																																																																																				
				回答	<p>環境科目群に設けた「環境問題特別講義」（第1学期）及び「環境問題事例研究」（第2学期）は国際環境工学部における初年次教育の中核となる科目で、分野横断型の環境課題に取り組み、工学としての軸の重要性と他領域との融合による発展の可能性を体験することで社会課題の解決につなげている。</p> <p>「環境問題特別講義」では、オンラインスキル、ICT・AIを活用したデータ解析など、どの工学分野でも必要なリサーチスキル、調査研究を安全に進めるための情報リテラシーやリスクマネジメントなどを修得させている。</p> <p>さらに、2020年からは「環境問題特別講義」の受講者を対象とした未来地域産業インターンシップを課外活動としてスタートし、北九州エリアの企業と連携して1年生向けのインターンシップを実践し、早い段階からキャリア意識を持たせている。</p> <p>「環境問題事例研究」では、SDGsに関連するテーマについて、主体的に問題解決に至るための調査研究活動を行い、最終的には成果報告を行っている。グループ活動を通じて、知識やスキルのみならずコミュニケーション力の向上につなげている。</p>																																																																																				

中期計画 No.	期間評価	年度評価	項目	質問・回答			
8		○	語学力の向上	質問	「中国語能力検定2級レベル50%以上」が目標を下回っていることについての問題点を示してほしい。		
				回答	2020年度まで目標が達成できていたのは、留学に行って語学力が飛躍的にあがった学生がいたのが大きい。留学に行った学生に対しては留学中に中国政府認定のHSK（漢語水平考試）5級以上を取得するか、帰国後にHSK5級以上、中国語検定試験2級以上を受験するよう指導しており、実際に留学した学生は検定試験に合格していたことから目標が達成できていた。新型コロナウイルス感染症の影響で留学できず、これまで目標達成を支えていた学生がいなかったことが問題点として上げられる。 また、留学できないという現実が学生の検定試験の受験意欲の低下に影響したことも問題点としてあげられる。中には気持ちを切り替えてモチベーションを維持して受験に取り組んだ学生もいたが、気持ちの切り替えができなかった学生もあり、目標達成につながる受験者数、合格者数が得られなかった。		
9		○	派遣留学の拡大	質問	新型コロナウイルス感染症の影響も徐々に解除され、元に戻ろうとしているが、円安や海外の物価高騰の影響が出ているのかについても示してほしい。		
				回答	アメリカへの留学が決定していた数名の学生が、留学生との情報交換の中で、海外の物価高騰の情報等を得て、ドル高騰によるコストアップを理由として渡航を辞退するケースもあり、円安や海外の物価高騰の影響は受けている。		
13		○	教育課程の再編	質問	自己評価をIVとしているが、計画目標を上回っている点を具体的にお示しいただきたい。 どの部分が計画を上回っているのかを示してほしい。		
				回答	2016年3月に出された「『卒業認定・学位授与の方針』（ディプロマ・ポリシー）、『教育課程編成・実施の方針』（カリキュラム・ポリシー）及び『入学受入れの方針』（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン」に基づき、3つのポリシーを見直すと同時に、大学独自に「学部等教育課程再編部会」を設置し、カリキュラム再編に取り組んだ。15学科・学類それぞれに違いがあり、個別に協議し、学修成果（DP到達度）の測定を念頭に、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーを作成した。 また、当初予定していなかったが、基盤教育センターにおいて、DPに相当するものとして、各教育課程の教養教育で修得する力を「基盤力」として位置づけ、基盤教育科目を本学の将来ビジョンである「地域」「環境」「世界（地球）」を含む7つの科目群に再編した。 このように、順次性・体系性を重視した科目の見直しを計画的に行い、2019年度に一斉に新カリキュラムを開始した。 新カリキュラム開始後、2021年度には点検・評価に係るデータ・指標、実施方法等を定めた「アセスメントプラン」を新たに策定し、同プランに基づき、新教育課程の点検・評価を行いPDCAサイクルを完成させ、それを基に、次期カリキュラムの再編につなげる取組みを行っている点は、計画目標を上回っていると考えられる。		
21		○	アクティブシニアを含めた社会人教育の充実	質問	「i-Designコミュニティカレッジ」に関しては、2020年度の不測の事態の後、2021年度以降がどうなっているのかを中期目標期間評価にも示してほしい。		
				回答	「i-Designコミュニティカレッジ」に関して、2020年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から履修中止を余儀なくされたが、その後、2020年度履修決定者については希望制で2021年度に履修ができるよう柔軟な対応を行った。新型コロナウイルス感染症収束の見通しが立っていなかったことから、履修希望者の増加には至らなかったが、2022年度に開設した新領域「社会人のデータサイエンス基礎」では、オンデマンドで開講する「社会人専用科目」を新たに設けるなど、工夫を行った。 2021年度以降の履修者は、下記のとおりである。 <table border="1" data-bbox="651 1982 1013 2060"> <thead> <tr> <th>2021年度</th> <th>2022年度</th> <th>2023年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>37名</td> <td>48名</td> <td>40名</td> </tr> </tbody> </table>	2021年度	2022年度
2021年度	2022年度	2023年度					
37名	48名	40名					

中期計画 No.	期間評価	年度評価	項目	質問・回答	
27	○		インターネット出願	質問	インターネット出願が具体的に志願者確保につながったか、結果があれば示してほしい。
				回答	インターネット出願が導入されていることを理由として、本学を受験する学生が増加したとは考えにくいですが、受験生のメリットとして、出願書類の取り寄せが不要となったり、全国どこからでも24時間出願手続きが可能となることなどが挙げられ、利便性が大きく向上したと考えている。
44	○		地域共生教育センターのプロジェクトの充実	質問	プロジェクトへの参加人数だけでなく活動の質が重要であり、その点についての評価をお示しいただきたい。
				回答	地域共生教育センターの活動は学生主体の課外活動で、学部・学群、学年横断型のチーム編成がなされ、活動の中で社会人と協働することで、新たな価値観に触れる機会となっている。 同センターのプロジェクトは、参加学生の学びのためのきっかけを創り出し、座学では学ぶことができない経験値を獲得する機会を提供する取組み、すなわち、オフキャンパスでの教育効果を見据えたプロジェクトの選定と多面的評価を行うことで、活動の質を高めている。 その結果、社会貢献に意欲があり、積極的かつ自主的に取組み、意思表示できる学生の育成ができていますと評価している。
53	○		自立的な運営体制の確立	質問	会議を開催したことのみではなく、「教育研究組織と事務組織の連携・協働による大学運営を推進」できた成果について、お示しいただきたい。
				回答	大学執行部調整会議、組織人事委員会及び予算方針会議には、教員と事務職員がメンバーとして参加する教職協働の会議であり、大学運営にあたり重要な役割を担っている。 例えば、大学執行部調整会議では、教育研究審議会にて審議・報告する案件について、確認・調整することで大学執行部内で意見調整を行っている。また、学長と学部等との意見交換に向けて、取り上げるべきテーマを決定したり、国の動向において、共有すべき事項がある際には、大学執行部調整会議の中で情報共有を行ったりしている。 その他、予算方針会議では、教職員それぞれの立場から意見を出し、ネットワーク環境の整備やアクティブラーニング対応教室の整備など、戦略的な予算編成につなげている。 以上から、大学運営全般において本学の資源を最大限活用できていると考えている。
	質問			理事会（役員会）における、今後の大学の在り方、特に大学院教育やAIなどの教育の問題がどのように議論されているのかを示してほしい。	
	回答			役員会では、中期計画や自己点検・評価報告書等について審議する中で、大学院の定員充足について問題の認識はされているが、具体的な改善には至っていない。 AIについては、2023年度に入ってから急速に進展したことから、教育研究審議会において、業務や授業、入試問題作成等におけるChatGPT等の生成系AIの利用について議論を行い、大学としての方針を整理した。AIに対する社会的な動向を踏まえ、今後役員会でも議論していきたい。	
67	○		法令遵守の徹底	質問	第三者への貸与等の不適切行為が認定・確認された件について再発防止策や新体制の開始等が行われているが、「不正防止対策強化年度」と位置付けた2021年の取組の振り返りがなされたのか否か。
				回答	毎年度公的研究費内部監査を実施し、その結果を翌年度の研究不正防止計画に反映することでPDCAを回している。2021年度の状況を振り返り、2022年度は書面監査における抽出件数を増加したり、実地監査を年に2回実施するなど、不正防止対策を強化した。 また、今回の事案を踏まえ、再発防止策として、研究不正防止ガイドラインの改訂やコンプライアンス研修の実施、内部監査における実地監査対象の拡大、現物確認の際の抜打ち性の確保を講じた。 なお、活動の振り返りについては、毎年度「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づく「体制整備等自己評価チェックリスト」によって、不正防止計画の策定状況や監査の方法等をチェックすることで、実施している。